

平成27年度

学校評価 総括評価表

徳島県立富岡東高等学校（本校 全日制）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔1〕 学習指導の充実 向上と進路指導 の充実	(全校レベル) 学習習慣を定着させ確かな学力をつけさせる。 希望する進路を実現させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B  (所見) ・生徒の授業への満足度は約78.7%であった。(昨年度約80%) ・高い水準の授業づくりを推進しており、目標が高いが、総合評価は、1教科を除いて全ての教科で90%を超える評価だった。  ・授業評価アンケート等では、概ね良好な結果であった。  ・設定目標に基づく授業展開ができ、基礎的な学力の定着を目指した。  ・各学年で必要かつ重要な基本的学習習慣が身についた。  ・各担任はそれぞれ工夫して生徒の実態把握に努め、生活記録も毎日チェックし、コメント記入をまめに行っている。	学校評価の評価指標については、できたことについても毎年同じ評価指標を設定するのはいかがなものか。できたことは置いておいて、新しい評価指標を設定する必要がある。  学校の重点課題については、教育の継続性の観点からは、大きく変更しない方が良いのではないか。  学校評価アンケートのデータについては、本校全日制、定時制、羽ノ浦校、中学校で共通のグラフ書式に統一し、理解しやすいものに統一する。  SGHの指定を視野に入れて、総合的な学習の時間の見直しを行う。また、中高の連携をさらに推進する。  学力向上プログラムの評価と総括評価表の様式をそろえる。	
		・学習に対する意欲や達成感の向上→70%以上	・「学習に対する意欲達成度の向上」は70.2%があてはまると回答			B
		・平常日の1日の家庭学習時間→一人平均3時間以上	・1学期、2学期とも平均2.8時間となり目標値を下回った。			C
		・生徒の進路について検討会を行う。	・検討会を7月・10月・12月・1月に行うとともに必要に応じて個別に検討を行った。			B
	(下位組織レベル) ①生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 ②指導内容の精選と指導方法の工夫改善 ③自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成	・インターンシップを体験させて、自分にあった職業を選択する契機とし、就職内定率100%をめざす。	・就職内定率94%→100% (1月末現在)	B		
	④進路相談の充実と進路実現への取組の強化	・商業科では、全商1級3科目以上取得者40%以上をめざす。	・1級3種目以上取得者44%→36%(27年度14/39)	C		
	⑤教育的支援が必要な生徒に対する個別カウンセリングの重視	活動計画	活動計画の実施状況			
	⑥生徒個々の状況を把握することにより進路実現に向けた支援の充実	・「学力向上検討委員会」において生徒の学力向上を図る授業の展開を促す。  ・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修や授業評価アンケート等を実施する。  ・教科(科目)ごとに設定した研究テーマに基づく授業を実践し、さらに相互評価をとおして、よりよい授業の指導方法を研究する。  ・生活記録や生活実態調査を通して、各クラスの生徒の状況を把握し、基本的生活習慣の確立、特に学習時間の確保ができるよう助言する。	・「学力向上検討委員会」や職員会等で、生徒の学力向上を図る授業の展開をお願いした。  ・研究授業・公開授業による教員研修や授業評価アンケート等を実施した。  ・科目ごとに目標を設定し、それに基づく授業実践を行った。  ・確認テストや課題提出を定期的実施し、生徒一人ひとりの学習内容理解の把握を行った。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔2〕 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成  (下位組織レベル) ①学校行事、部活動等における中高合同での取り組み  ②各教科における中高合同の教科会	評価指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と高校生の学校行事、生徒会活動、部活動等における交流充実を図る。</li> <li>中高教職員による相互授業参観を学期に一度以上行う。教科会を実施する。</li> <li>中高教職員による授業交流や進路研究会を行う。</li> </ul>	評価指標による達成度 <ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭では、中高合同でチームを編成した。各団が中心となって練習するなど交流が深まった。 A</li> <li>中学高校で相互参観授業を学期に一度行い、お互いの立場から協議や研究をした。 A</li> <li>英語・数学・体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業をおして高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握し今後の課題を模索している。 B</li> </ul>	総合評価 (評定) A  (所見) <ul style="list-style-type: none"> <li>中高生の相互交流による連帯感が生まれている。今後は、新たな付加価値を模索し、中高一貫教育校としてのメリットを生かせるさらに進んだ教育を実践したい。</li> <li>教育課程検討委員会では全ての教科の協力体制ができた。満足のものもできた。</li> <li>各教科の指導計画も検討を重ね、良いものもできた。</li> <li>面接を多く実施し、生徒の進路に対する意識の向上ができた。</li> <li>中高一貫教育体制が確立してきたが、さらなる工夫が必要である。</li> <li>部活動の活動場所、中学と高校の連携について、さらに配慮が必要である。</li> </ul>	中高一貫教育がスタートして6年が経過し、中学校の一期生が高校卒業を迎える。 このたびの卒業は中間結果であるにとらえるべきで、取り組みについては見直し議論が必要である。  学校評議員会、学校評価に関する会議の各担当の資料については、グラフの形式がそれぞれ異なり、統一した方が理解しやすいと思われる。	学校評価アンケートで、中学生、高校生、保護者に、中高一貫教育の取り組みに関する調査を実施する。  本校の中高一貫教育がめざすべき目標・目的等について、教職員間で議論を深め、共通理解を深める。
		活動計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。</li> <li>教科(科目)ごとに教育課程を検討し、編成する。</li> <li>各科目ごとに年間指導計画を作成する。</li> <li>面接をおして、将来の進路希望等を考えさせ、自発的活動を促す。</li> <li>富東祭(文化祭・体育祭)を中高合同で開催する。</li> <li>部活動で中高合同の練習を行う。</li> </ul>	活動計画の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>相互授業参観を学期に一度以上行い、中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行った。また、教育委員会訪問の時にも相互に研究協議を行った。</li> <li>各教科の教師の意見を反映させた教育課程を作成することができた。</li> <li>各教科ごとに年間指導計画を作成している。</li> <li>個別面接を多く実施し、将来のことを考えさせるとともに、生徒の自発的な活動を促した。</li> <li>富東祭(文化祭・体育祭)で中学校高校とも協同する形で開催することができた。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
〔3〕 豊かな心を育む 生徒指導	(全校レベル) 挨拶、マナー等の基本的な生活習慣の確立と定着  (下位組織レベル) ①服装、頭髪を整える。 ②欠席、遅刻をしない。 ③安全に登下校する。 ④いじめや体罰に関して調査し、速やかに対処する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		生徒指導方針が十分に理解されていないようだ。遅刻の回数については、昨年度と比較して大きく改善していると、評価できる。  通学のJRの中で、グループで私語が周りに迷惑をかけている。公共交通機関での乗車マナーについて、身につくように指導する必要がある。
		・生徒指導方針に賛成である →90%以上	・生徒指導方針に賛成である 66.6% →66.5%	C	B	
		・遅刻をしない →90%以上	・遅刻をしない 91.2% →92.7%	B		
		・身だしなみをきちんとしている →90%以上	・身だしなみをきちんとしている 93.2% →92.1%	B		
		・いじめと体罰に関するアンケートを学期に1回実施する。	・学期に1回アンケートを実施し、兆候が見られた時は速やかに対処した。	B	(所見) ・基本的な生活習慣(服装・頭髪等)は、大多数の生徒ができています。限定された一部の生徒が寝坊などの理由で遅刻した。 ・遅刻者数2学期末時点比較 369回(H26年度423回)54回減少した。 ・登下校時の交通事故件数12件(H26年度7件)5件増加した。 ・命の大切さとともに、自転車は加害者ともなり賠償責任が生じることなども指導していく。自転車マナーの苦情をいただくこともあり、その都度指導しているが生徒の意識改革までは至らなかった。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		・生徒指導課が中心となって全教職員間で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。	・学期ごとにあいさつ運動や昇降口指導をとおして、教職員間で共通した指導ができた。			
		・挨拶の励行や清掃活動への自主的かつ主体的な取組を促す。	・昇降口指導において、挨拶など基本的な生活習慣の確立と服装・頭髪についての指導を行った。			
・HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。多遅刻者の指導については、保護者への連絡を密にする。	・朝の富東タイムまでに登校するように指導することで、遅刻者はほとんどいない。					
・ホームルーム活動、全校・学年別集会をとおして服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。	・挨拶や5分前行動ができるよう学年全体で指導した。					
・交通マナー、事故防止についての指導を行う。	・自転車利用生のマナーについて指導の徹底を行った。					

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見			
〔4〕 人権尊重の意識・態度を育む「心の教育」の推進	(全校レベル) 教育活動全体を通じた人権教育の推進	評価指標	評価指標による達成度	総合評価  B (評定)  A  (所見) ・PTA人権教育研修会や『富東人権新聞』,人権教育ホームルーム活動等を充実させ,学校をあげてこれからも人権意識の向上を図っていく。 ・理解はある程度できるが,それが他の人権課題や普遍的な人権に結びついていない。	PTA人権教育部の取り組みについては,研修に参加して,充実した内容のものについては情報発信したり,校内の研修に招聘したりするなど,協力ができるのではないか。	富東人研新聞にPTA人権教育部の取り組みを掲載する。このことにより生徒及び保護者に情報発信して,人権教育を推進する。	
	(下位組織レベル)	・『富東人権新聞』の発行回数7回以上/年	・『富東人権新聞』は7回発行した。				B
	①温かい人間関係に つつまれた学級づくりの 推進と生徒理解の 深化	・生徒対象の人権教育映画会等の 実施	・人権啓発講演会を中・高 生,保護者,教職員を対 象に実施。(6月1日)				A
	②自他の尊厳が重視 される教育環境の構 築	・人権問題教職員研修会を年3回 実施	・人権問題教職員研修を3回 実施。				B
	③生徒の自主的な活 動の推進	・PTAブロック別人権教育研修 会を本校での1回のPTA人権 教育研修に集約し,著名人を講 師として研修する。	・PTA人権教育研修会を 公開授業日に実施した。				A
	④学校・家庭・地域 ・関係機関との連携 の緊密化と協力体制 の構築	・「人権を尊重するための様々な 取り組みが行われている」(保 護者)が80%以上。	・「人権を尊重するための 様々な取り組みが行われて いる」(保護者)が87. 5%以上。				A
	⑤人権問題の解決の ために主体的に取り 組む実践力の育成	活動計画	活動計画の実施状況				
	・人権意識の高揚を図り,同和問 題をはじめ様々な人権問題解決 の意欲と実践力をもった生徒を 育てる。	・「人権を尊重するためのさま ざまな取り組みが行われてい る」と答えた生徒は83.4%だ った。					
	・人権教育ホームルーム活動を充 実させ,各クラスの状況に合わ せて資料等を探し,展開等の工 夫をする。	・人権教育ホームルーム活動 →1・2年生は6回,3年生 は5回実施。					
	・富東祭において「人権問題啓発 ポスター展示」等を行う。	・富東祭において人権問題啓発 ポスターの展示,ホープサーク ル部の活動報告展示,人権週間 (1月)にポスター・標語・書 道作品の展示を実施。					
	・月1回の「富東人権の日」に『富 東人権新聞』を使って啓発する。	・『富東人権新聞』を7回発行 し,さまざまな人権課題を取り 扱った。					

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
【5】 特別活動の充実	(全校レベル) 特別活動を通してたくましく生きる精神力と、心豊かな人間性を育成する  (下位組織レベル) ①生徒会や各種委員会の活動を盛り上げる ②部活動をさらに活性化し文武両道を具現化する ③ボランティア活動の推進	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		多くの生徒が、部活動に真剣に取り組んでいることがよく理解できる。同じ富東高校の生徒が努力している姿を、その部活以外の生徒も応援できる機会をもうけてやる必要がある。  総合体育大会、総合文化祭などにおいて、選手への応援や、展示会場で作品を鑑賞するなど、できるだけ多くの生徒が関わりを持ってるように取り組む。
		・豊かな人間性を育むために学校行事を積極的に計画する。 学校行事の満足度→80%以上	・学校行事への満足度 78.1% →82.2%	B	A	
		・部活動の加入率 →100%をめざす	・部活動加入率 109% → 108%	A		
		・四国大会、全国大会出場部数の増をめざす。	・女子陸上、女子バスケット、女子剣道が全国大会へ出場を果たした。	A		
		・文化部のコンクール等参加を促進する。	・文化部では情報処理部、経理研究部、放送部、美術部、囲碁部が全国大会へ出場を果たした。	A	(所見) ・1年生は原則全員入部としているが、複数入部を可能としているので2・3年生においても入部率100%以上を達成できた。 (1年115% 2年105% 3年105%) ・生徒会長を中心に生徒会役員等がボランティア活動で地域社会との交流を積極的に推進した。 ・部活動の応援をとおして協力体制やコミュニケーション能力を育み、「文武両道」を推進することができた。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		・部活動紹介や部登録の時間を設定し、入部を促す。入部率1・2年においては100%をめざす。	・入学後すぐ、部活動登録や部登録の時間を設定した。複数入部も可能なので入部率各学年で100%以上を達成できた。			
・全校集会において受賞者には表彰伝達を、大会への参加者には壮行会を実施する。	・全校集会において、表彰伝達、壮行会を実施し、自信と誇りを共有した。					
・生徒会役員、JRC部を中心に地域のさまざまなボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。	・生徒会役員、JRC部を中心として、阿南市の老人体育大会・成人式などの機会にボランティアとして参加し、地域社会との交流を深めることができた。					
・高校総体時には応援バスを出し、学校あげての応援態勢をくむなど「文武両道」を実践する。	・総体や選抜大会の決勝など応援バスを出し、全校あげた協力体制で「文武両道」を推進することができた。					

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見		
〔6〕 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育・食育の推進	(全校レベル) 震災を想定した避難訓練を徹底して行う。  (下位組織レベル) ①環境問題について意識の高揚を図る  ②校内外の環境美化に積極的に取り組む  ③健康教育, 安全教育, 食育の取組の強化	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	大地震が発生する確率が高まる中、津波対策の避難訓練を真剣に行う必要がある。  毎回同じ内容だと、マンネリに陥る危険性があるが、煙を体験することなどによって、真剣さが維持されて良かったと思う。  学校外で大地震が発生したことを想定して、避難訓練を行う。 通学途上で地震が発生することを想定し、各自に最適な避難場所を考えさせる。また、自宅で地震が発生したときも想定し、同様に取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>津波対策の避難訓練を地域と連携して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練は5月15日, 5月27日, 11月5日に実施し, 地域との合同防災訓練は, 11月21日に実施した。7月14日(火)防災講演会, 10月27日(火)には環境問題講演会を実施した。</li> </ul>	(評定)  B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健便り」年間で10回以上発行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健便り」は9回発行できた。</li> </ul>	(所見) <ul style="list-style-type: none"> <li>火災を想定し, 発煙筒を発火させて, 緊迫感のある避難訓練が実施できた。</li> <li>ゴミの分別の徹底はできるようになったが, 校舎内の清掃の取りかかりが遅いことがあった。</li> <li>教職員全体にAEDを使用した救急救命法の研修を実施した。</li> </ul>	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震や津波に対する備えや対策について学び, 自らの命を自分で守る事の大切さを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練をとおして, 津波発生時の避難経路や場所の確認を行い備えを徹底した。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の清掃活動を, 「5分前」にとりかかる姿勢を身につけ, 校内環境美化に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の環境整備委員が各学期を分担し, 全校放送による5分前行動を呼びかけた。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>資源ゴミの分別収集を徹底し, ゴミ削減に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ置き場清掃当番が担当教諭の指導の下, 毎日徹底した分別を行った。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>食育を推進し, 心身共に健康な生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進委員会を開き情報交換を行った。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健便り」を発行して, 感染症への予防意識を高めるなど, 健康教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節に応じて, 適切な内容の「保健便り」を発行した。</li> </ul>				

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
〔7〕 家庭・地域社会との連携による「開かれた学校づくり」の推進	(全校レベル) 地域の信頼と多様なニーズに応え、地域と共生する特色ある学校づくりを推進する  (下位組織レベル) ①学校評価制度の活用と学校の活性化 ②教師と生徒、生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		「開かれた学校づくり」の推進のためには、直接学校の授業を見学する機会を設けたり、授業を受ける機会を設定したりすることが重要である。また、このような催しを開催するに当たっては、インターネットを活用して、予告、事後報告などを充実させる必要がある。  ホームページの更新については、部活動において、主な大会への参加等については、大会終了後速やかに更新する。 PTA総会を始め、各種イベントについてはホームページの「お知らせ」に予告を掲載したり、報告を掲載したりして、広報に努める。
		・ホームページのアクセス数が年間150,000件以上	・ホームページのアクセス数は、866,161 (昨年678,595) 件であり、昨年より約19万件増えている。昨年度は11万件増加	A	(評定) A	
		・ホームページを定期更新(月2回以上)する。	・ホームページの更新は、部活動等を中心に更新した。ホームページ更新回数83回(4月1日～2月10日)	C	(所見) ・中学校体験入学に参加して「とても良かった」が約71%であり、4年続いて伸びている。(61%→64%→65%→71%) ・「学校行事は適切で楽しいものである」と答えた生徒は82.2%(昨年度は78%)であった。 ・HPの更新が滞りがちだった。 ・限られた時間内ではあるが、有意義な面談となった。 ・担任と保護者との相互理解が深まった。	
		・『ひがし倶楽部』を年3回発刊し、小中学校等に配布する。	・『ひがし倶楽部』を年間3回発刊し、中学校での高校説明会の時などに配布し、各中学校へ広報した。	B		
		・PTA総会の参加保護者50%以上をめざす。	・PTA総会の保護者参加率は51.2%と昨年度より0.7%上がった。	B		
		・大学視察等、PTA研修会を実施する。	・大学(岡山大学・川崎医療福祉大学)見学や研修会を行った。岡山大学では卒業生に大学の説明と案内をしてもらった。	A		
		・各学年の「保護者対象進路説明会」参加保護者50%以上	・保護者対象の進路説明会を実施した。(1年96名 2年83名 3年128名) 全体で51.2%の参加。	B		
活動計画	活動計画の実施状況					
・地域の教育力を活用するため学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。	・「学校評議員会及び学校評価に関する会議」を開催し、関係者から意見を聞き、学校運営の参考にした。					
・総会の行事内容を保護者のニーズにあったものになるように工夫し、総会欠席保護者には、総会資料の配付や二者面談時に総会内容に触れる。	・PTA総会のとき、進路講演会を実施し、ニーズに合った有益な情報を提供できた。参加者305名(参加率51.2%)					
・中学生体験入学、公開授業の各参加者400人超をめざす。	・中学生体験入学の参加者は359名、公開授業の参加者は475名だった。					



自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見		
〔8〕 教職員の資質向上	(全校レベル) 興味関心が最後まで持続する授業の実施  (下位組織レベル) ①コンプライアンス意識の向上 ②授業改善に取り組む。 ③各種研修に取り組む	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「熱心に授業に取り組む」、 「授業に様々な工夫をしている」教員を増加させるためには、授業研修が不可欠であろう。予備校等でも研修の機会があるのなら、積極的に参加すれば授業改善につながる可能性があるかもしれない。  管理職と教務課長、企画課長、特活課長、進学課長、人権教育課長で月例会を開催し、各種行事の運営について共通理解を図る。 学校運営を改善するには教職員の資質向上のための研修と、教職員が十分に情報交換をおこなうことが重要である。 総合教育センターの各科目を対象とした希望研修にも積極的に参加し、教科内で周知を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートにおいて教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒はそれぞれ80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒はそれぞれ約84.9%と約78.9%であった。(昨年度は82.2%, 78.3%)</li> </ul>	(評定)  B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス、情報セキュリティ等の啓発活動を充実させる。eラーニングによる夏、冬の研修、過去の研修に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職朝など短時間を利用してコンプライアンス意識向上の積み重ねを図る。eラーニングによる研修参加率100%</li> </ul>	(所見) <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全・マナー等意識改革の徹底を図っていく。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に関する研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校カウンセラーを講師として、研修会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「報告・連絡・相談」が、徹底できるようにする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導力向上研修に10名以上参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予備校等の研修に12名が参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体で組織として機能することは概ねできていて、生徒の情報を共有し必要に応じて教育相談・特別支援課や管理職と連携しながら、支援に勤めた</li> </ul>	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員集団や個人の規範意識を高める。</li> <li>学年主任を中心に、「報告・連絡・相談」の意識をもって、生徒の指導や支援にあたる。</li> <li>コンプライアンスの遵守やカウンセリング、特別支援教育についての専門的な講演会に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスについて常日頃から意識向上を図るように勤めた。</li> <li>支援が必要な生徒に対して、学年主任や担任・教科担任と情報共有を図り、生徒の指導や支援を行った。</li> <li>生徒理解に必要な研修会や講演会に参加し、指導や支援の仕方の共通理解を図った。</li> </ul>		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
<p>[9] 伝統を受け継ぐ さわやかな校風の樹立</p>	<p>(全校レベル) 他に類を見ない本校独自の特色ある学校づくりをする。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①富岡東としてのオンリーワン教育の実現</p> <p>②自立をめざす視点、共生をめざす視点、個性を重視する視点からの生徒の育成</p> <p>③伝統の継承と新たなアイデンティティの構築</p>	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事は適切なものである」という保護者が90%以上。</li> </ul>	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事は適切なものである」という保護者は92.4%（去年は92%） A</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者からは、県南の雄として、好感をもって迎えられている。</li> <li>・進学や就職、部活動等においても目標に近い数値を達成できている。</li> <li>・生徒会長を中心に生徒会の自主的な活動により、富東祭・予餞会などの学校行事を推進できた。</li> </ul>	<p>保護者アンケートで、「学校行事は適切なものである」と「富岡東校に入学させて良かった」がそれぞれ92.4%、90.5%であり、保護者にとって、全体として満足度が非常に高いことが分かる。</p> <p>校訓である「自主」、「協同」、「研学」について、機会ある毎に触れ、学校の教育方針を常に意識させる。さらに、重点課題についても、生徒はもとより、保護者にも周知し、家庭での教育に理解と協力が得られるように取り組む。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡東高校に入学させて良かった。（保護者）90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡東高校に入学させて良かった。（保護者）89.2%→90.5% B</li> </ul>		
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高校、全日制、定時制、商業科、普通科、看護科など多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりをする。</li> </ul>	<p>活動計画の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課程・各学科それぞれが多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりを工夫して実践した。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種学校行事を充実し、良き伝統が先輩から後輩へ引き継がれるよう、生徒会を中心に活動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富東祭（文化祭・体育祭）、予餞会など生徒会の自主的な活動により、多くの学校行事が充実し、良き伝統が先輩から後輩へと受け継がれている。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服を美しく自然と着こなす、さわやかな挨拶、奉仕精神など、本校の伝統的美質を伝える指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者数の減少、挨拶の励行、服装・頭髪に対する意識の高揚の3点を重点目標として生徒指導にあたった。</li> </ul>				